

長野交配 「YRSE」



育成経過

キャベツ生産上萎黄病は最も大きな障害の一つとなっている。長野県野菜花き試験場では、本県のキャベツの主力品種である長野交配中生かんらん「SE」の特性を保持しながら、萎黄病抵抗性を保有する品種の育成を進めてきた。昭和50年よりF1組み合わせ能力検定を開始し、昭和56年に抵抗性を両親系に持ち、F1で抵抗性をホモに保有する「SE」タイプの系統を選抜し、昭和58年、育種目標とする諸特性に優れた系統に「長・野交6号」の系統名を付し、現地適応性試験に移し検討を重ねた結果、ほぼ育種目標が達成されたので育成を完了した。昭和60年7月、育成系統は種苗法に基づく登録品種となり「YRSE」と命名された。

品種特性

萎黄病に対しては栽培条件に影響されない安定した抵抗性を保有している。熟期は「SE」よりやや早く、定植後60～65日で収穫できる、早生に近い中生種で、草姿は「SE」よりややコンパクトである。葉色は緑色でブルームの発生がやや少なく、球色は「SE」と同等の淡緑色で、光沢に優れ、新鮮味がある。1球重1300g内外の扁円球で球緊度に優れている。葉肉は「SE」と同程度で軟らかく、食味性に優れている。

栽培上の留意点

1. 萎黄病汚染地帯で能力を発揮する。
2. 定植は本葉4～5枚の若苗とし、老化苗の定植を避ける。
3. 肥培管理では、元肥を「SE」より10～15%多めとし、追肥は外葉形成後期の本葉数12枚程度までに完了する。
4. 外葉の充実した生育を図り、湿害、乾燥などによる生育障害発生を防止する。
5. 萎黄病以外の病害については、防除を徹底する。
6. 適期収穫を励行する。

※ 種子は当センター会員の全国農業協同組合連合会長野県本部及び各JA並びに長野県種苗生産販売協同組合各種苗店を通じ販売しております。

一般社団法人 長野県原種センター

長野市松代町大室2417-3

TEL 026-278-9229 FAX 026-278-9369